

# いわて県議会だより 第161号

平成28年12月定例会号



台風第10号により店内に土砂が流れ込んだ道の駅いわいずみは11月1日に営業を一部再開し、復興に向けて頑張っています！

台風第10号の被害から少しずつ復興が進んでいます。今後も災害からの復旧・復興へ支援を続けます。



©わんこぎょうだい

編集・発行・問い合わせ先

## 岩手県議会事務局

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10番1号  
電話：(019)629-6021・6022  
FAX：(019)629-6014  
Email:gikai@pref.iwate.jp

### 主な内容

- 1面 ●12月定例会のあらまし
- 議決の状況
- 議員・委員会が提出した議案
- 請願の採択状況
- 2～4面 ●県政に関する質問から
- 4面 ●県議会からのお知らせ

### 【ホームページのご案内】

議会の概要、議員名簿、本会議の会議録、本会議のインターネット中継、傍聴や請願・陳情の手続等をご覧ください。

http://www2.pref.iwate.jp/~hp0731/



岩手県議会

検索



## 12月定例会のあらまし

平成28年度一般会計補正予算(4億6千万円)や、岩手県部局等設置条例の一部を改正する条例など45件の議案を可決、同意

12月定例会は、12月7日から20日まで開催され、知事から提出された35件の議案が全て可決、同意されたほか、議員・委員会が提出した議案10件が全て可決されました。

初日の本会議では、平成28年度岩手県一般会計補正予算(第3号)や、岩手県部局等設置条例の一部を改正する条例(平成29年4月から、文化スポーツ部を設置し、国体・障がい者スポーツ大会局を廃止するもの)などの議案が知事から提出されました。

13日、14日、15日に行われた一般質問では、9人の議員が質問に立ち、活発な議論が交わされました。

16日の常任委員会では、それぞれ付託された議案のほか、請願について審査されました。

20日の本会議では、各常任委員長から報告があり、採決の結果、議案は全て可決、同意され、請願は、4件が採択、1件が不採択、1件が継続審査となりました。また、議員・委員会から議案の提出があり、全て可決されました。

## 12月定例会日程

(平成28年12月7日～12月20日)

- 12月7日 開会、本会議
- 12月8日 休会(議案調査)
- 12月12日 休会(議案調査)
- 12月13日 本会議、一般質問3人
- 12月14日 本会議、一般質問3人
- 12月15日 本会議、一般質問3人
- 12月16日 常任委員会
- 12月20日 本会議、閉会

### 議決の状況

◎平成28年度補正予算【可決】  
一般会計1件、特別会計1件

◎条例議案【可決】  
岩手県部局等設置条例の一部を改正する条例など11件

◎人事議案【同意】

収用委員会の委員及び予備委員の任命に  
関し同意を求めることについて

◎その他の議案【可決】

山田漁港海岸防潮堤高潮対策工事の変更

請負契約の締結に関し議決を求めること  
についてなど21件

◎議員・委員会提出議案【可決】

意見書10件(詳細は左欄に記載)

◎請願

採択4件、不採択1件、継続審査1件(詳細は左欄に掲載)

12月定例会では平成28年度一般会計補正予算や岩手県部局等設置条例の一部を改正する条例が審議されました。平成28年度一般会計補正予算には、沿岸被災市町村が実施する福祉灯油事業に対する補助や、奨学金を活用した大学生等の地方定着支援等に必要経費を計上しています。



12月20日の採決の様子

### 議員・委員会が提出した議案

今定例会では意見書10件が可決されました。

可決された意見書は、県議会から、内閣総理大臣をはじめ国会や国の関係機関などに提出し、その実現を図るよう強く要望しました。

#### ◎意見書

- ▼特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律に反対する意見書
- ▼受動喫煙防止対策強化措置に関する意見書
- ▼私学助成制度の充実を求める意見書
- ▼子供の貧困対策の推進と強化を求める意見書
- ▼あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律及び関係法令の遵守並びに違法者取締りの徹底強化等を求める意見書
- ▼地域防災力の向上と災害に強い防災体制等の整備を求める意見書
- ▼安心な社会保障と強い地域経済を構築するための地方財政措置を求める意見書
- ▼河川整備の更なる促進を求める意見書
- ▼国民健康保険制度改革に必要な財政支援の確実な実行を求める意見書
- ▼高齢者の自動車運転免許の返納等に関し移動手段の確保を求める意見書

### 請願の採択状況

- ◎採択(意見書を発議し、関係機関に要望することとして採択)
  - ▼厚生労働省における受動喫煙防止対策強化措置について意見書提出を求める請願
  - ▼私学助成を拡充させ、教育費負担の公私間格差をなくし、子どもたちにゆきとどいた教育を求める請願
  - ▼私学助成の充実強化等に関する請願
  - ▼特定複合観光施設(IR)地域整備推進法(カジノ解禁法)に反対する請願
- ◎継続審査
  - ▼早池峰国定公園の保護を更に強化していただきたい請願
- ◎不採択
  - ▼自衛隊への「駆けつけ警護」など新任務付与の閣議決定を撤回するよう政府に求める請願

意見書、決議と採択された請願の本文はHPでご覧になれます。

議員別の賛否の状況はHPでご覧になれます。



# 県政に関する質問から



12月13日の議場の様子

12月13日から15日まで行われた一般質問では、9人の議員が質問に立ち、台風第10号の被災者支援に係るものから、県の財政運営、県産米のブランド戦略など、県政の幅広い分野にわたって活発な議論が交わされました。

その中から、議員1人3項目に限り、議員の質問と知事または関係部局長の答弁の要旨を紹介します。

なお、詳細は、県議会ホームページの「インターネット議会中継」又は、「会議録」を御覧ください。



質問タイトル上のアイコンは、質問の分野を示しています。

- ★ 総務関係 (他の4分野以外のもの)
- 環境、福祉関係
- 商工、教育関係
- 農林水産関係
- ▲ 土木関係

12月13日(火)  
一般質問  
1人目



創成いわて  
工藤 誠  
議員  
(二戸選挙区)

## ★文化スポーツ部設置の目的

設置の意義や目的、なぜこの時期なのか。また、県民への効果をどう考えているのか伺う。

文化・スポーツを核とした施策の効果的、戦略的な展開のため事務を一元化するもので、文化・スポーツに関する施策の充実に加え、健康づくり支援や観光振興施策との連携による取り組みなどを推進していく。

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会を通じて醸成された県民の文化・スポーツに対する関心の高まりや、北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録の取り組みなどにより、右手の文化やスポーツに新たな発展が期待されることから今回、設置をしようとするもの。

現在策定中の文化・スポーツ振興戦略に基づく施策を推進することで、文化やスポーツが持つ多面的価値を社会的・経済的な力に発展させ、地域づくりを進めていく。

## ▲一戸都市計画道路上野西法寺線の着工時期

第2期工事終了後7年経過しているが、第3期工区の着工時期、平成29年度予算措置の考えを伺う。

県では、平成21年度から地元との意見交換や鉄道事業者との協議を重ねながら調査検討を行い、現在、都市計画変更手続きを進めている。

上野西法寺線の重要性は認識しており、今年度、都市計画道路整備事業として事前評価を行い、現在、平成29年度の事業着手を目指して当初予算の協議を行っている。

## ●世界遺産登録の機運醸成に向けた県民運動

北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録に向けた知事の意気込みを伺う。

一戸町の御所野遺跡を含む北海道・北東北の縄文遺跡群は、国の文化審議会から保存管理面の取り組みが評価される一方、縄文文化の価値のわかりやすい表現や、資産全体の価値と個々の構成資産との関係の合理的な説明など課題が示された。

現在、課題解決に向け、専門家との意見交換や、文化庁と協議しながら、各構成資産との関連性を明確にわかりやすい表現で、国際的視点からも理解されるよう推薦書案の改訂作業を集中的に行っている。

御所野遺跡の持つ価値の重要性や、県民の大きな期待があることから、関係自治体と連携しながら来年度のユネスコへの推薦の実現に向けて取り組んでいく。

12月13日(火)  
一般質問  
2人目



いわて県民クラブ  
渡辺 幸貴  
議員  
(奥州選挙区)

## ■規制改革推進会議の農協改革に係る提言

県は、規制改革推進会議の農協改革に係る提言をどう受け止めるのか伺う。

農協は、地域農業の振興だけでなく、農村地域の社会生活全般を支える重要な役割を果たしてきたと認識しており、また、改正農協法では経営目的などが明文化され、JAグループも組織体制や事業の見直しを含め自己改革を積極的に進めることとしている。

農協は、組合員の相互扶助の精神に基づく独立した組織で、自主的、自律的に組織・事業改革を進めることが基本であり、農協改革は、農協が果たしてきた役割や農業者などの意見、地域の実情を踏まえ進める必要がある。

県としても、農協の自己改革が、農家所得の向上と農業や農村の維持と発展につながるよう支援を行っていく。

## ■岩手競馬存続の意義

レジャー白書によると競馬愛好者は2%に過ぎない。ごく限られた少数のファンのために、岩手競馬を存続する意義はどこにあるのか伺う。

岩手競馬は収支均衡を条件に、県議会での議論も経て構成団体から融資を受け、存続が認められた。存続させる意義は、競馬関係者の雇用を確保すること

にも、地域経済への貢献や、収益の確保を図り、構成団体に利息に加え元金を返済していくことと考えている。今後とも県民の理解を得ながら、事業の目的実現に向けて最善の努力を傾注していく。

## ★本県財政の運営

平成31年度以降の厳しい財政運営にどのように対応していくのか。今後の予算編成で、震災被災地とそれ以外の地域バランスをどう考えていくのか伺う。

中期財政見通しでは多額の収支ギャップが生じる見込みだが、東日本大震災津波からの復旧・復興や、ふるさと振興のため必要な事業を確実に実施していく必要がある。歳入の確保や国への要望などによる財源確保と、税源涵養も図り、安定的な財政運営に努めていく。

地域バランスについては、被災地の復興や、ふるさと振興のため、全県で産業振興や子育て支援、医療・福祉の充実に取り組んできた。今後も地域の実情に応じた施策の推進について優先度を見極めながら進めていく。

12月13日(火)  
一般質問  
3人目



自由民主クラブ  
樋下 正信  
議員  
(盛岡選挙区)

## ●障がい者スポーツに係る選手の強化方針

今回の希望郷いわて大会の結果を踏まえた、障がい者スポーツの選手強化方針について伺う。

希望郷いわて大会に向けて策定した基本方針では、選手育成強化のコンセプトとして、①全体的な基礎体力及び運動能力の向上、②競技力向上と競技普及のための基礎づくり、③障がい者スポーツから日常的に楽しめる生涯スポーツへ、④各地域での活動拠点づくりを掲げ、取り組んだ結果、今大会では、メダル獲得数が過去最高となるなど、大きな成果を挙げた。

今後この基本方針をベースに、選手や指導者、競技団体関係者から課題や対応策の意見を伺い、さらなる選手強化が図られるよう検討を行っていく。

## ★岩手医科大学の跡地活用

岩手医科大学の跡地活用検討懇話会からの意見はどのような内容となっているのか伺う。

先般開催された懇話会では、跡地活用で求められる機能や施設例についての意見を取りまとめ、①都市機能のさらなる向上と住環境の整備、②賑わいと交流拠点としての機能整備、③国際化への対応と未来を担う人材の育成、④安全・安心、子育て支援の充実、⑤彩りあるまちづくりや観光機能の充実の5項目を柱とする報告書案が協議され、今後開催される跡地活用検討会議に提案される予定となっている。

## ■水田を活用した園芸振興

水田を活用した園芸振興にどのように取り組むのか伺う。

米の需給緩和に伴い、水稲の作付面積が減少する中、収益性の高い園芸品目の導入や拡大を進め、農家所得の確保と向上を図っていくことが重要であり、県では地域ごとに特性を生かした転作作目を定め、園芸作物の生産拡大を図っている。

特に近年、需要が拡大している加工・業務用野菜への転換を積極的に支援しており、花巻地方では機械化体系によるタマネギの作付面積が前年度と比べ倍増するなど、成果が現れている。

生産拡大には、単収向上と省力的な作業体系の確立が必要であり、単収向上技術の普及や高性能収穫機械の導入支援等に、引き続き取り組んでいく。



12月14日(水) 一般質問 1人目



改革の手 小野 共 議員 (釜石選挙区)

漁業者の安定的な収入の確保

担い手の育成と外部からの参入には、漁業者の安定的な収入の確保が必要と考えるが、見解を伺う。

県では「つくり育てる漁業」の推進が重要と考

え、栽培漁業や養殖業に取り組んできた結果、その

生産額は本県沿岸漁業の約7割を占めるに至っている。特に養殖業は、生産量の維持・増大と収入の向上を図るため、意欲と能力のある漁業者の経営規模の拡大、コストの低減、6次産業化を進めてきた。

今後、東京築地市場で評価の高いエゾイシカゲガイや、マガキの新たな養殖技術の普及を図るほか、養殖生産物や加工品の販路拡大、ブランド化による高付加価値化を促進し、漁家収入の安定化と所得向上に取り組んでいく。

県立釜石祥雲支援学校の移転新築

釜石祥雲支援学校環境整備検討協議会の検討内容、進捗状況、課題と移転新築の方向性を伺う。

同校の教育環境の改善に向け、保護者代表や釜石市などで構成する検討協議会で、移転候補地の絞り込みや学校のあり方などの協議を行ってきた。

移転候補地は、県有地である旧釜石商業高校の跡地を第一候補とすることで関係者の一定の理解が得られた。今後は、児童生徒の送迎手段の確保や下校後の福祉サービス事業所との連携などについて、保護者や関係者と話し合い、丁寧な対応を図るとともに、移転候補地は現在、応急仮設住宅用地として使用中のため、その解消の見直しを見極めながら早期に着手に着手できるよう努めていく。

主要地方道釜石遠野線の整備方針

主要地方道釜石遠野線の改良の検討状況と、今後の方針を伺う。

県では、復興計画において釜石遠野線を復興関連道路と位置づけ、釜石市剣地区などで整備を進めてきた。笛吹峠付近は幅員が狭く、急カーブが連続しており、また、橋野鉄鉱山の世界遺産登録で交通量が増加していることから、整備が必要な区間と認識している。抜本的な改良整備は多額な事業費が見込まれるなど早期の整備が難しく、現在、車両のすれ違いが困難な状況を緩和するため、局部的な拡幅やカーブの緩和、待避所の設置などを調査検討しているところで、これらの事業化に向けて取り組んでいく。

12月14日(水) 一般質問 2人目



自由民主党クラブ 城内よしひこ 議員 (高古選挙区)

主要漁種等の水揚げと資源の状況

秋サケ、サンマ、スルメイカの水揚げや資源状況、また、漁船漁業への影響と支援策について伺う。

秋サケは水揚げ量が約6800トン(震災前の32%)、水揚げ量は約48億円(同67%)。サンマは約2万2千トン(同47%)、40億円(同119%)、スルメイカは約4千トン(同28%)、21億円(同81%)である。国の調査によれば、魚種によるばらつきがあるが、総じて本県近海の資源は安定しているとされている。

漁船漁業は特にイカ釣り漁業によるスルメイカの水揚げ量は約5億円(同30%)である。資源管理・経営安定対策事業や漁業セーフティネットワーク構築事業の導入を促し、経営の安定化を支援していく。

台風第10号の被害に対する商工業者への支援

東日本大震災津波に続き、二重に被災した事業者の声をどう捉え、支援していくのか伺う。

県では、市町や商工団体等と連携して実施した、被災事業者への訪問調査の結果等を踏まえ、広範な浸水による商店等の比較的少額の被害への対応や、被害規模が甚大な事業者への支援を行う地域なりわい再生緊急対策交付金を創設した。

加えて、国に財政措置を要望し、小規模事業者持続化補助金、地域・まちなか商業活性化支援事業、革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金がそれぞれ実施されることになった。引き続き国、市町、関係団体と連携し、被災商工業者の復旧復興に取り組んでいく。

三陸鉄道の一貫経営に対する知事の所感

三陸鉄道が今後地域に果たす役割に対する認識と、将来的な運営について所感を伺う。

三陸鉄道は、沿岸住民の日常生活の足として、今後も地域に果たす役割は大きいと認識している。取り巻く環境は大きく変化しているが、平成30年度内に見込まれるJR山田線の移管は、南北直通運転による利便性の向上や、運営の効率化などのメリットがある。これを十分に生かし、利用者の増加に努めることも、コスト削減で経営を強化し、沿線地域のマイルール意識の醸成と、地域一体となった利用促進の動きを加速させ、三陸鉄道の運営を将来にわたって支えていく。

12月14日(水) 一般質問 3人目



改革の手 軽石 義則 議員 (盛岡選挙区)

長時間労働の是正

県契約条例でも適正な労働条件の確保をうたっているが、労働時間を適正に把握し、長時間労働の是正を図るため、具体的にどう取り組んでいくのか伺う。

国では、労働時間の適正な把握のために使用者が講ずべき措置に関する基準を定め、若手労働局では、過重労働対策の監督指導などを実施している。

県では、ワーク・ライフ・バランスに関するセミナーの開催など普及啓発や、国の助成制度の活用促進に加え、本年度からいわて働き方改革推進運動を開始し、参加企業の中から優れた取り組みを表彰するいわて働き方改革アワードを実施するなど、企業の働き方改革の取り組みを推進し、長時間労働の是正に取り組んでいる。

市町村からの要望への取り組み

市町村からの要望を、知事としてどのように県の施策等に反映させていく考えか、所見を伺う。

広域振興局は、日頃から地元ニーズの把握に努めており、広域振興局長から知事への報告の場には、本庁の関係部局長も同席し、翌年度に向けた施策を検討する上で重要なプロセスの一つとなっている。

市町村からの要望内容は、全て広域振興局長と関係部局が連携しながら施策への反映を検討しており、平成29年度の予算編成は、地域産業の振興や文化・スポーツ施策の戦略的な展開をはじめ、若手県ふるさと振興総合戦略に基づく取り組みを重点事項に位置づけ、必要な予算額を確保することとしている。

難病患者やがん患者などの理解促進

難病患者やがん患者などの理解促進について、市町村を含めた状況と今後の取り組みについて伺う。

県では、ハート・プラスマークの普及啓発のため、人にやさしい駐車場の看板のマーク表示などに取り組んでいるほか、障がい者が日常生活等で困ったとき、周囲に理解や支援を求めるための「おねがいカード」の作成や、市町村対象の会議で普及啓発に取り組んでいる。市町村では、パンフレット等へのハート・プラスマークの掲載や、「おねがいカード」の配架や周知を行っている。今後、県広報による普及啓発や市町村への働きかけを行い、難病患者への理解を深める取り組みを進めていく。

県産米のブランド戦略

今定例会の一般質問では、県産米のブランド戦略に関する質問がありました。

県では、米の産地間競争に対応していくため、オリジナル品種である「銀河のしずく」や「金色(こんじき)の風」のブランド化、主力品種である「ひとめぼれ」等県産米の食味向上などに取り組んでいます。

「銀河のしずく」は、県央部を中心に平成28年度から一般栽培を開始しており、「米のヒット甲子園2016」で大賞を受賞しました。

「金色の風」は、岩手県の最高級品種(フラッグシップ米)と位置付け、東京都内で名称発表会を開催し、平成29年度から一般栽培を開始し、全国の最高級ブランド米にこだわ

る消費者の皆様にお届けします。皆さんも、おいしい県産米をいっぱい食べ、どんどんPRしていきましょう。



金色(こんじき)の風のロゴマーク

彩られた風が、一粒のお米をやさしく包み込むイメージを表現しています。



用語解説

上野西法寺線 一戸都市計画道路で二戸町の中心市街地を通る幹線街路。(2ページ)

規制改革推進会議 内閣総理大臣の諮問に応じ、経済社会の構造改革を進める上で必要な規制の在り方の改革に関する基本的事項を総合的に調査審議する。(2ページ)

岩手医科大学跡地活用検討懇話会 平成27年11月に学識経験者や地元企業、地元町内会、商店街、市医師会等の関係者により設置。(2ページ)

ワーク・ライフ・バランス 「仕事」と、育児や趣味、休養、地域活動といった「仕事以外の生活」の両方を充実させる働き方。(3ページ)

ハート・プラスマーク 内部障がいや内臓疾患の存在を視覚的に示し、理解と協力を広げるために作られたマーク。(3ページ)



12月15日(木) 一般質問 1人目



自由民主クラブ  
神崎 浩之 議員  
(一関選挙区)

★人口減少対策

若手県ふるさと振興総合戦略の現在の取り組み状況と課題、今後の対応について伺う。

県では、雇用・労働環境の整備の促進、結婚支援や子育てしながら働きやすい労働環境の整備など、人口減少に歯止めをかける取り組みを行っている。

直近の人口統計では、社会減は3708人、出生数は対前年で436人の減と人口減少が進んでおり、引き続き「若手で働く」「若手で育てる」「若手で暮らす」の3つの柱のもと、ふるさと振興を強力に推進していく。

社会増減は、国の経済財政政策や経済状況の影響を強く受けるため、国に地方重視の経済財政政策を実施するよう全国知事会などと連動しながら訴えていく。

■県産米のブランド戦略

県では、「銀河のしずく」と「金色の風」をどのよう差別化しながら、県産米のブランド戦略を推進していく考えか伺う。

銀河のしずくは、首都圏の米穀専門店から外観、食味、後味の全てでバランスがよく、最近の新品種とは一線を画しているとの声が寄せられ、秋に本格デビューさせる金色の風は、米本来の美味しさを極限まで追求した最高級の品種として、東京銀座で開催したデビューイベント以降、急速に注目度が高まっている。

今後、マスメディア等を活用したプロモーションや、大消費地でのトップセールスなどでそれぞれの魅力アピールし、ブランドの確立に全力で取り組んでいく。

●医師不足対策

奨学金養成医師が県立磐井病院に配置されなかった理由、また、診療科の偏在について、県の認識と今後の対応を伺う。

配置基本ルールに基づき、本人の希望も踏まえ、た結果、両警を除く8医療圏に1〜3名の配置となり、この中に産科と精神科を選択した者はいなかった。

本県では全ての診療科で医師が不足しており、医師確保対策アクションプランに基づき、さまざまな取り組みを行ってきた。また、根本的解決には全国的な取り組みが必要なため、地域医療基本法制定を国に提言してきた。今後とも、関係機関と連携しながら、診療科偏在の解消に向けて取り組んでいく。

12月15日(木) 一般質問 2人目



改革右派  
佐藤 ケイ子 議員  
(北上選挙区)

●保育士の処遇改善

本県でも独自の保育士の処遇改善や就業資金貸付ができないか。また、潜在保育士の研修会などを県内各地で開催するべきと考えるが、所見を伺う。

県内全ての私立保育所で、国の処遇改善等加算を活用した保育士の給与改善に取り組んでいる状況であり、まずは必要な財源等を国に申し立てしていく。

また、本年度から潜在保育士就職準備金貸付事業に取り組み、多くの潜在保育士の就職につなげたい。

潜在保育士を対象にした研修会は、従前からの研修に加え、本年度から再就職した保育士との対話を行う相談会「保育士カフェ」を開催しており、今後とも地域や潜在保育士のニーズを踏まえた効果的な実施に努めていく。

■新しいブランド米「金色の風」の販売

「金色の風」の名称に込められた知事の思いと、販売にける意気込みについて伺う。

「金色」は黄金文化や黄金の國など、魅力あふれる歴史や文化、実直で勤勉な県民性など、若手の豊かさや信頼を象徴し、たわわに実った黄金色の稲穂を連想させ、「風」には、ふわりとした食感と豊かな甘み、変わらない粘りを兼ね備えた全国に誇る最高級品種として、食卓に新風を吹き込むという熱い思いを込めており、全国に誇るプレミアム米としてふさわしい名称である。

今後は関係機関が一丸となって、プロモーションや大消費地でのトップセールスを展開し、米卸売業者や小売店、消費者の認知度を高め、高い評価を勝ち取っていく。

▲総合的な空き家対策の推進

県全体で空き家情報を共有し、移住や利活用が進むストック対策をすべきと考えるが、所見を伺う。

空き家情報は地方への移住を検討している方々にとって大きな検討材料になるもの、市町村では空き家バンクの運営に当たり、優良な物件情報がなかなか集まらないことが課題と聞いている。

県では、遊休不動産や優良ストックを活用し、公民連携による地域活性化などを推進する若手県空家等対策連絡会議を立ち上げ、優良事例の共有やまちづくりに取り組み人材の育成を図ることとしており、こうした活動を通し、優良な空き家物件の掘起こしや利活用を図り、市町村が運営する空き家バンクの利用促進を支援していく。

12月15日(木) 一般質問 3人目



日本共産党  
齋藤 信 議員  
(盛岡選挙区)

●台風第10号被災者の医療費・介護保険利用料の免除措置

宮古市、岩泉町とともに久慈市でも実施されるのか。対象者と実施期間を伺う。

国民健康保険の医療費一部負担の減免は、三市町とも実施しており、介護保険サービス利用料の減免は宮古市と岩泉町で実施しているが、久慈広域連合では実施していない。

減免基準と実施期間は各市町村の判断で異なり、久慈市は所有する住宅または家財の価格の10分の3以上の損害を受けた被保険者のうち、世帯の収入が生活保護基準以下等の場合に免除される。

免除期間は昨年末までと把握しているが、現在、久慈市で国や県の財政支援、他の被災市町村の状況、国民健康保険運営に係る財政状況を勘案しながら対象者の要件拡大などの検討を進めていると聞いている。

★南スーダンからの自衛隊の撤退

南スーダンへの自衛隊の派兵に反対し、撤退を求めざるべきと考えるが、知事の認識を伺う。

11月15日の政府による新任務付与に関する基本的な考え方によれば、PKO参加5原則が満たされている場合でも、安全を確保しつつ有意義な活動を実施することが困難と認められる場合には、自衛隊の部隊を撤収するとしており、活動実施が困難と判断した場合には躊躇なく撤収されるものと理解しているし、そうしなければならぬと思っている。

今後、政府で現地の情勢をしっかり把握し、的確な判断をすべきと考えている。

●教師の暴言・暴力による不登校事件

県央部の県立高校における教師の暴力・暴言による不登校事件で、関係者・生徒の調査を行わなかったのは重大な過失と考えるが、見解を伺う。

県立高校の卒業生とその保護者が、平成21年に部活動の顧問による暴言、暴行でPTSDに罹患し、精神的苦痛を被ったとして、当該教員と県に賠償を求め民事訴訟を提起した事案で、事実関係の確認の結果、暴力行為は確認されなかったこと、傷害事件に係る告訴も不起訴処分とされたことを踏まえ、県として応訴した。

当該高校では平成21年当時、保護者から要請を受け、部活動の顧問と担任教員の聴取を行い、顧問からは暴力は振るっていないこと、担任からは体罰行為を目撃したことがないなどの聴取結果を得ている。

県議会からのお知らせ

- 【**請願の提出について**】  
請願の提出には、県議会議員の紹介(署名)が必要です。請願を提出する方は、審査を希望する定例会の招集日までに会派など(議員)に対して十分に説明を行い、議員の紹介を受けた上で、請願審査が行われる。
- 【**県議会に来てみませんか**】  
県議会の本会議や常任委員会、特別委員会などの会議は、傍聴することができます。車いすの方や盲導犬同伴の方も傍聴が可能です。
- 【**テレビ広報 県議会ダイジェスト番組「きょうの県議会」**】  
一般質問が行われた日に、質問の様子を3分程度にまとめた番組を、テレビ岩手(18:50～・再放送20:54～)、岩手朝日

- 任委員会開催予定日の3日前の正午までに県議会事務局に提出してください。  
なお、提出期限などの具体的な日時は、定例会ごとに会期などと併せてホームページでお知らせします。
- 傍聴の受付は、会議開始30分前から行います。問合せ先：県議会事務局総務課(TEL019-629-6006)
- テレビ(18:53～)、岩手めんこいテレビ(18:55～・再放送1:25～)で放送します(放送時間は変更になる場合があります)。

「いわて県議会だより」は、6月、9月、12月、2月の定例会ごとに年4回発行し、各市町村を通じて県内全世帯にお配りしています。

点字版・テープ版・デジ版も用意していますので、ご希望の方は、県議会事務局まで、お問い合わせください。

**みんなの文字®**

この制作物は、みんなの文字を使用しています。みんなの文字は、一般社団法人UCDAが「読みやすさ」を認証した書体です。

**用語解説**

岩手県ふるさと振興総合戦略  
ふるさとを振興し、人口減少に立ち向かうため、県の基本目標と主な取り組み方向等を示したものです。

潜在保育士 (4ページ)  
資格を有しながら現在保育士として従事していない方。

処遇改善等加算 (4ページ)  
職員の平均勤続年数や、賃金改善、キャリアアップの取り組みに応じた人件費の加算を行うもの。